

令和7年度「実施計画 兼 まちづくり達成状況報告書」（事務事業点検シート）

課等名： 都市計画課 シート No. : 78-2 作成日： 2025.5/16

① 総合計画上の位置付けと事務事業の背景・目的と目標

後期基本計画	施策の大綱	V都市基盤の充実	事務事業の背景・目的	事務事業の目標
	施策の目標	2 多様な交流を促す交通ネットワークを形成する	圏央道が令和8年度までに全線4車線化されることにより、首都圏近郊からのアクセス性向上が見込まれるなか、大生郷工業団地周辺は、慢性的な渋滞を起こしており、新たな産業拠点の形成や企業誘致を促進する上では、交通利便性の向上が必要となっています。さらには、圏央道常総ICは浸水想定区域となっており、災害時の代替機能の確保が必要となっています。 そうしたことから、大生郷工業団地周辺においてスマートICを整備することで、交通利便性の向上、市内のさらなる広域交通ネットワークの形成を図り、企業誘致の促進及び地域の振興・活性化、防災性向上に繋がります。	「大生郷工業団地周辺地区基本構想」を基に、産業団地整備、鬼怒川ふれあい道路整備、河川防災拠点整備の各プロジェクトと相互連携し、スマートICを整備することで、スマートICの整備効果を高め、広域アクセス拠点として交通利便性向上を図り、企業誘致促進や地域産業活性化を目指します。 また、常総ICは浸水想定区域にあり水害に対し脆弱であるため、鬼怒川西部の高台にスマートICを整備することで、災害時の救援救護活動の強化、輸送道路の確保など市域の防災性向上を目指します。 さらには、スマートICの整備により、鬼怒川ふれあい道路の整備進展に繋がっていきます。
	施策	1 道路網の整備		
	施策内容	広域道路ネットワークの形成促進		
	その他、根拠法令及び分野別計画等	第2次常総市都市計画マスタープラン（R6～R22） 大生郷工業団地周辺地区基本構想		
事務事業名	圏央道スマートIC整備事業			

② アクティビティ（活動・事業）とアウトプット（結果）

③ インプット（投入）

アクティビティ（活動・事業）		アウトプット（結果）			R7予算額	R7決算額
活動名・事業名 （対象年）	R7活動・事業内容	指標（単位）	R7目標値	R8目標値		
			R7実績値	R9目標値		
地方での計画検討 （R7・8・9）	国による準備段階調査（直轄調査）選定及び新規事業化決定を目指し、地方での計画検討としてIC必要性や整備効果の検討を行います。	検討進捗率（％） （※新規事業化100％）	20	50	14,000 千円	千円
				80		
関係機関協議 （R7・8・9）	計画検討の熟度に応じて、茨城県や国等の関係機関との協議を行います。	協議実施（回）	3	6	0 千円	千円
				6		
					千円	千円
					千円	千円
					千円	千円
					千円	千円
					千円	千円
					千円	千円

④ アウトカム（成果）

指標名	目標値	R7実績値
スマートIC開通までの事業進捗率	25% （R9）	

⑤ 点検・改善

業務の振り返り	改善の余地			
	☐ コスト	☐ 活動	☐ 成果	☐ その他
	今後の方向性			